

皇国日本を思う

非常時日本、その日本の全体に大洋のうねりのような、革新の血潮が高鳴っている。津々浦々にまで動いている。

緊張と、興奮、日本は今、異常な限を開いて日本それ自身に目覚めはじめた。今こそ、日本の真の色の出づべき時である。民族の使命のより一段と果さるべき時である。

こうした非常時は、真実なるもののものを言う時である。あらゆる虚偽と、横暴と、不合理が清算されつゝ、真実にして、力強き者の現れる時である。金を取らねば選挙にゆかぬ国民、金を播いて当選した議員、何時までこうしたことがくり返されるのか。

時代が腐敗すると、賄賂横行の醜状が社会全体にみなぎって来る。何か事業がおこされ、何かの移転が行われると、すぐその裏に幾十万円の怪しい金が播かれている。こうした賄賂横行時代は腐りきった時代である。如何に外国の官吏や議員や、警察官や、教育家が金で動くからといって、日本がそれを真似なければならぬことはない。

皇国日本の非常時、その時何が一番強かったか。不正にして日本を売るものは、葬られてゆくではないか。浄化せよ日本を。革新せよ日本を。我等は皇国日本の歩みを一致せしめなければならない。得手勝手にして道義を蹂躪する人間は、家庭の癌であり、社会の癌であるように、無道義にして強き民族は世界の癌である。更に、秩序と統制とをたぎる国も、世界平和のための手足まといである。皇国日本を道義と秩序と平和との理想的に結合された国にしなければならぬ。

不幸にして人類の世界では、未だに、武力がものを言っている。戦争の惨禍を知りつゝ、武力によつて戦わねばならぬ現状である。

すでに戦いあれば必ず勝たねばならぬ。敗惨の国は世界に向かって何等の力をも持たなくなり、更に人類の指導的立場から退かねばならぬからである。

だが戦いは決してそれが一国一民族の野望の為であつてはならない。正義を無視し、人類の理想を破壊する者に対するための止むを得ざる手段である。皇軍は唯、正義のためのみに動かさるべきである。

凡そ一民族の存在する意義は、その民族の歩みが、それを通して世界を指導することとでなければならない。されば、野蛮にして強き国も、文化にして弱き国も共に、人類を指導することは出来なかつた。故に我等は、我が民族をして、聡明なる文化の創造者であると共に、真に強き国民たらしめなければならない。しかして明日の世界を何をもつて指導せんとするか。世界は今、理想を失える時である。「光は東方より。」と言う。東方の光は何であるのか。我等は大乗菩薩道を思うものである。高遠なる涅槃の思想を提示するものである。

仏教は、平等即差別を教える。差別を無視せる平等は悪平等であり、平等を無視せる差別は悪差別であり、压制である。平等の理想が生きて、差別が生き、差別が生きて平等が輝く。そこに相即不離の中道がある。

日本はロシアでもなく、伊大利でもない。日本には日本の伝統があり歴史がある。独逸を日本に持つて来ることも出来ないし、伊大利を日本へ直訳することも出来ない。されば、我等の祖国は徹頭徹尾日本である。祖国日本の国難は、我が国難であり、日本の歩みは、我が歩みである。

民族の血は我が血であり、我が血は民族の血の流れである。人類平等の大理想がこの紅き血の中に吸収されて滋養となり、やがて民族の力を通して実践の巨歩が進められなければならない。

噫、天皇の御名によつて生きる大和民族よ。世界平和の為の闘いに勇敢であれ。民族の血よ、一切の不正不義を打破して強く生きぬけ。大和民族はただ真の世界平和のためにのみ存在すべきである。